

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校麻生工科自動車大学校	平成20年3月31日		〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999				
目的	高度技術や環境保全等の社会的に重要なテーマに対応できる国家一級小型自動車整備士を養成する。また幅広い整備対応を目的に二級二輪自動車整備士を養成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	1級自動車整備科	—	平成22年文部科学大臣告示第156号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	3895	1179	0	2716	0	0
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
220 人の内数	147 人の内数	7 人の内数	1 人の内数	8 人の内数			
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う			
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏季:8月3日～9月13日 ■冬季:12月19日～1月11日 ■学年末:1月30日～3月31日		卒業・進級条件	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講の実施、休学、留年		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 自動車ディーラー、自動車整備業界 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	1級小型自動車整備士 二級二輪自動車整備士			
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成28年4月1日時点において 在学者 139名 平成29年3月31日時点において 在学者 133名 ■中途退学の主な理由 学習意欲の喪失、単位未取得、出席不良 ■中退防止のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施		中退率	10% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)			
ホームページ	http://www.asojuku.ac.jp/acet/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年における自動車整備業界においては、

1. 電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術革新の進展が待っている
2. 多様化する自動車ユーザーの保守管理を支援するため、整備工場には、早く、正確で、分かり易い情報の提供が求められ、整備士には、この情報提供の先導的な役割が期待されている
3. 社会的に環境保全の重要性が認知され、整備工場におけるリサイクルの推進等、環境保全に向けた対応を図る必要性が増大しているなどの状況下である。これらの社会的に重要なテーマについて対応できる整備士を育成することを基本に、ディーラー等へのインターンシップや企業訪問等を通じ、現在要求される技術を的確に把握し分析し、高度な実践的カリキュラムを学習していく。また、国土交通省の指針に合わせた幅広い高度な整備技術能力(新しい電子制御機構や新技術、振動騒音にも対応できる(総合診断力)とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとして人材を育成。さらに、環境保全や安全管理の学習をととして、職場や地域環境保護に 対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
 - (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
 - (3)教科書・教材の選定に関する事項
 - (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項
- カリキュラム会議は、上記第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸原 武志	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部長	H28.11.1~H29.10.31	①
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	H28.8.1~H29.7.31	③
坂口 哲也	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部長	H28.11.1~H29.10.31	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 倫太郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行補佐		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
小金丸 清	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明(開催日時)

第1回 平成28年6月23日 15:00~17:00

第2回 平成28年9月2日 15:00~17:00

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 15:00~17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. 学習指導

- (委員意見)①インターネットを利用した学習指導してはどうか
②法令に力を入れる必要あり

- (活用状況)①eラーニングコンテンツ作成、使用
②法令教材の製作

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し就業体験活動を経験させる事により、学生の学習効果を高め、かつ即戦力となる事を基本方針とした学外教育を実施する。国土交通省の指針に合わせ、自動車の点検整備においては「法令点検整備作業」「点検整備に伴う付帯作業」「各種点検整備」「一般整備」、故障原因探求においては「故障修理作業」「高度診断技術」「高度整備技術」「自動車新技術」、総合診断においては「作業廃棄物処理」「安全管理と作業効率」「アドバイザー業務、応酬話法」とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとして人材を育成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

業務内容及び条件については、国土交通省の定める基準に従い調整を行い決定する。

但し、危険性の高い作業(含車両移動)については除外する。

実習実施店舗にて実習指導者を選任していただき、指導および監督を行う。また実習指導者は実習生から提出される「日報」および「体験実習記録」を毎日確認するとともに、定期的な評価。実習生は「初期:1週間後」「中期:1ヵ月後」「後期:最終」に自己評価後、実習指導者に提出し評価していただき、「後期:最終」評価終了後、事業場管理責任者にご確認いただき記名、捺印する。担当教員は適宜施設を訪問し、学生の学習状況について直接確認するとともに、実習担当者または事業場管理責任者と情報交換を行う。実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業「体験実習」	1)自動車の点検整備 2)故障原因探究 3)総合診断	福岡トヨタ自動車(株)、(株)福岡トヨペット、福岡スバル(株)、福岡ダイハツ販売(株)等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。
 教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

(目的)進化したアフターサービスの安全環境への取り組みの理解

(概要)スポット溶接、ボディアライニング、アライメント、衝突被害軽減ブレーキ、診断関連の現状及び問題点

(受講者)教員2名

2. マツダSKYACTIV技術セミナー

(目的)マツダの自動車開発及び技術の理解

(概要)車両開発部門:人馬一体の走りに関する開発及び新技術について

デザイン部門:マツダデザインの挑戦について

マツダ販売会社:風土改革への取り組みについて

(受講者)教員1名

3. いすゞ販売会社研修

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

4. 日産技術講習会

(目的)日産の技術の学習

(概要)日産先進技術に関する講習(パーキングアシスト等)

日産EV技術に関する講習

5. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修

(目的)基本法令としての整備事業に関する道路運送車両法等及び最近改正された法令及び主要通達等

(概要)・整備事業関係:道路運送車両法の一部改正等 ・指定整備事業関係:用途変更における構造等の同一の範囲等 ・

検査業務関係:ナンバプレートの表示義務の明確化等

(受講者)教員1名

6. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修

(目的)最近1年間に自動車メーカー各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ

(概要)・ハイブリット車の故障探求 ・富士重工ハイビームアシスト ・本田技研パーキングブレーキシステム

(受講者)教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 新任教員研修

(目的)①麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする

②麻生塾のクラス運営、授業法を理解する

③同期入社間の交流を図る

(概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など

(受講者)1名

2. 麻生塾スキルアッププログラム基本研修

(目的)カリキュラム作成指南

(概要)教育理念に基づくカリキュラム編成、法令等に基づく要件、単位の考え方、カリキュラム編成上の注意事項

(受講者)教員1名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 日産技術講習会

(目的)日産の技術理解

(概要)日産先進技術に関する講習(プロパイロット、e-Power)

(受講者)教員1名

2. バンザイ研修

(目的)最新の整備技術、機器類について

(概要)未定

3. 福岡トヨペット技術研修会

(目的)トヨタ車の技術、安全作業、新型車

(概要)未定

4. いすゞ販売会社研修

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)未定

(受講者)教員1名

5. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修
 (目的)基本法令としての整備事業に関係する道路運送車両法等及び最近改正された法令及び主要通達等
 (概要)未定
 (受講者)教員1名
6. 福岡県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修
 (目的)最近1年間に自動車メーカー各社が発表した新機構・新装置の代表的なものについての構造・機能等を学ぶ
 (概要)未定
 (受講者)教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. 教育コーチング研修
 (目的)教員の教育力向上と学校運営力の向上
 (概要)コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング
2. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修
 (目的)クラス運営
 (概要)学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。1対多と1対1での話し方の違い、どういふケースにどちらが効果的かを学ぶ。
3. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修
 (目的)学則・学内規定
 (概要)担当の学校の学則の内容を確認し、留意点を学ぶ。学則を基本とした各種学内規定について知識を深める。生活指導面、就職指導、成績評価、学内文書など。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2)学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3)教育活動	・学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4)学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5)学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6)教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8)財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。
(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為のシステムが構築がされているか
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

1. 保護者会
 (評価結果)三者面談方式での実施は有効
 (活用状況)継続実施
2. 授業アンケート
 (評価結果)アンケート結果に対し、主任と本人で共有しコメント記入は有効
 (活用状況)継続実施
3. チュータ制度
 (評価結果)ベテラン教員によるチュータ制度は有効
 (活用状況)継続実施

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
堤直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	H28.8.1~H30.7.31	企業等
市川利治	福岡トヨタ自動車株式会社 営業業務部部长	H27.11.1~H29.10.31	企業等
藤田 一	ダイハツ工業株式会社 執行役員	H29.6.1~H31.5.31	企業等

時松真秀子	H23年度卒業生	H27.11.1～H29.10.31	卒業生
杉本 誠	H22年度卒業生	H28.6.1～H30.5.31	卒業生
林紀子	1級整備科3年生保護者	H27.11.1～H29.10.31	保護者
村上伸二	東比恵2丁目町内会	H27.11.1～H29.10.31	地域住民
大和 豊	学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校 校長	H27.11.1～H29.10.31	高等学校
下村 輝夫	ものづくり人材育成センター 顧問	H28.6.1～H30.5.31	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ・8月

公表方法 : <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

公表時期 : 8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、出願資格、出願書類、選考方法、入学手続き、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校法人 麻生塾 URL: <http://www.asojuku.ac.jp>

専門学校麻生工科自動車大学校 URL: <http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 1級自動車整備学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車整備	整備の基礎知識、基本作業、測定作業、点検用機械工具	1通	32	2	○			○		○	○	
○			ガソリンエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置燃料装置、吸排気装置、電気装置	1通	77	5	○			○		○	○	
○			ディーゼルエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置	1後	32	2	○			○		○		
○			シャシ構造	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1通	77	5	○			○		○	○	
○			電装構造	電気回路、オームの法則、電気、電子についての基礎、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置	1通	78	5	○			○		○	○	
○			二輪自動車	エンジン、シャシ、電気装置、点検整備	1後	15	1	○			○		○		
○			材料・燃料・油脂	自動車に使われている材料についての種類、性質、特性、燃料、油脂の内容、潤滑及び潤滑油、作動油の内容	1前	15	1	○			○		○		
○			数学Ⅰ	単位、基礎的な原理・法則、自動車の諸元、電気の基礎	1後	19	1	○			○		○		
○			数学Ⅱ	単位、高度な原理・法則、自動車の諸元、電気の応用（応用編）	2前	16	1	○			○		○		
○			法規・検査Ⅰ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	1後	15	1	○			○		○		
○			法規・検査Ⅱ	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	2通	31	2	○			○		○		

○		ガソリンエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	63	4	○			○		○	○		
○		ディーゼルエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	48	3	○			○		○			
○		シャシ	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー、故障原因探求	2通	63	4	○			○		○	○		
○		電装	エンジン、シャシ電気装置、始動装置、充電装置、点火装置、故障原因探求	2通	49	3	○			○		○	○		
○		GCB I	「協働」の態度を持った学生生活、よりよい人間関係の構築に向けて、マナーの本質、グローバルシティズンとしての日常・目標・「志」に向けて	1前	15	1	○			○		○			
○		基礎実習	手仕上げ工作、機械工作、基本測定実習	1前	120	3				○	○		○	○	
○		エンジン整備実習 I	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	1通	170	4				○	○		○	○	
○		シャシ整備実習 I	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1通	166	4				○	○		○		
○		電装整備実習 I	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウオッシュャ、エアコン、電気装置の配線	1通	174	4				○	○		○		
○		エンジン整備実習 II	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	2通	174	4				○	○		○	○	
○		シャシ整備実習 II	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	2通	160	3				○	○		○		
○		電装整備実習 II	半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウオッシュャ、エアコン、電気装置の配線	2通	174	4				○	○		○		
○		故障原因探求	ガソリンエンジン故障原因探求、ディーゼルエンジン故障原因探求、シャシ故障原因探求、電装故障原因探求	2後	62	1				○	○		○		
○		自動車検査作業	道路運送車両法等の改正の概要、定期点検の実施時期、点検整備記録簿、自動車メーカーが指定する点検整備	2後	60	1				○	○		○		

○		エンジン電子制御	エンジン電子制御装置、吸入空気量信号回路、スロットル開度信号回路、電源回路、センサ、アクチュエータ	3通	128	8	○			○		○						
○		シャシ電子制御	シャシ電子制御装置、電子制御式オートマチックトランスミッション、電動式パワーステアリング、アンチロックブレーキシステム、オートエアコン	3後	95	6	○			○		○						
○		自動車新技術	ハイブリッドシステム、無段変速機、CNG自動車、筒内噴射式エンジン、コモンレールシステム、車両安定制御装置	3通	80	5	○			○		○						
○		環境安全	環境保全とその必要性、資源の有効活用、産業廃棄物の影響と対応、P R T R法安全管理の意義、災害防止、職場における防火防災、救急処置についての心得	3通	32	2	○			○		○						
○		マナー	自動車整備業のリーダーとして求められるマナーや立ち振る舞いの習得	3前	15	1	○			○		○						
○		SPI	就職試験で出題されるSPI（非言語問題、言語問題）の解答解説。分数の計算からはじまり最終的には確率の問題まで解けるように演習を実施する。漢字の読み書きの問題の実施。	3通	30	2	○			○		○						
○		就実	自動車整備業界の研究や自己分析を進めて、社会人になる準備を行う。	3通	60	4	○			○		○						
○		産マネ	日経産業新聞を教材とし、新聞の読み方の基本を学ぶ。自動車業界の記事に対しての個人の考えや評価を作成、また個人作業の中でグループディスカッションを実施。	3通	60	4	○			○		○						
○		GCB II	「志を立てる」をテーマに人間力を育む麻生専門学校グループ独自のカリキュラム。自動車整備業界のリーダーに相応しい行動力や意欲を持たせていく。	3後	15	1	○			○		○						
○		スペシャルゼミ I	新技術への対応力の習得 レーダーブレーキサポート、ハイブリッドモータ制御、スマートキーエントリーシステム、アイドルストップ等について研究・発表	3後	95	2				○		○						
○		スペシャルゼミ II	CAN通信、エンジン高度故障診断、ABS、オートエアコン、シャシ高度故障診断	4前	95	2				○		○						
○		総合実習	リーダーとして整備業界をけん引していくことを前提に、部下(下級生)への確実な基礎実習の教授、実習作業時の安全管理・監督を行い、部下(下級生)を育成および指導する。	3前	140	3				○		○						
○		高度診断技術	ダイアグノーシス機能の理解、外部診断機を活用した故障診断要領の理解、基本点検作業の習得、DGとフェイルセーフの研究	3前	125	3				○		○						
○		故障探求 I	振動・騒音分析器の有効な機能を紹介し、各々の状況下で最適に活用し、振動・騒音の解析を行うとともに、振動・騒音の低減の効果についての研究を行う。	3後	125	3				○		○						

○		故障探求Ⅱ	異常検知範囲の研究 検出信号電圧を変化させてマイコンの閾値の研究、異常検知外でのデータ解析及び症状の確認	4前	95	2			○	○	○		
○		故障探求Ⅲ	過去に出題された国家試験を、車両及び診断機器等を用いて検証。また不具合が起こった場合の車両現象、電圧の変化等を研究し故障探求技術の向上及び理解度を向上させる。	4前	130	3			○	○	○		
○		故障探求Ⅳ	日整連発行「自動車定期点検整備の手引き」をもとに、不具合箇所を確認しながら点検作業を行う。受付から納車説明までを含めた流れの実践。	4前	130	3			○	○	○		
○		故障探求Ⅴ	過去に出題された国家試験を、車両及び診断機器等を用いて検証。また不具合が起こった場合の車両現象、電圧の変化等を研究し故障探求技術の向上及び理解度を向上させる。	4後	130	3			○	○	○		
○		総合診断	エンジン電子制御装置、シャシ電子制御装置、自動車新技術の内容の各装置の総合診断	4後	110	2			○	○	○		
○		自動車整備作業「体験実習」	国土交通省の規定に基づく内容 自動車の点検整備、故障原因探求、総合診断	4後	315	7			○	○	○	○	○
合計				45 科目	3910 単位時間 (135 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件)履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。(履修方法)各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、○評価以上の評価を取得することで、当該科目を履修したことを認める。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。